

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4373000423
法人名	医療法人 新清会
事業所名	グループホーム むつみ荘
訪問調査日	平成 20 年 12 月 10 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 19 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4373000423
法人名	医療法人 新清会
事業所名	グループホーム むつみ荘
所在地 (電話番号)	熊本県葦北郡芦北町大字佐敷371-6 (電 話) 0966-82-2146

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年12月10日	評価確定日	平成21年1月19日

## 【情報提供票より】(20年 10月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 10 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造、鉄筋 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	水俣病院 篠原医院 井上歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

熊本県南部の静かな環境と桜並木等があり、毎日隣接の母体医院での治療を兼ねたホーム周辺の散歩や地域住民と一体となって花見を催す等立地条件を生かした取組み等、地域の中での生活を自然体で取組んでいる。母体医院や併設老健と連携した取組みは確立し、昨年度の評価課題に真摯に取り組む、理念の見直しや重度化する現状を踏まえ看取りに関する指針を整備し、訪問看護を取り入れている。既存の建物であり、階段に昇降機を取り付けているが、入居者は階段を自分に叱咤激励しながら上り下りしており、これも身体機能低下防止の一つにしている。職員の研修体制や福利厚生も確立し、法人理念の個性・主体性を、定着した職員の質の高いケアにより実現化している。何よりも職員の明るく自信を持ったケアが入居者の笑顔や生き生きとした表情として表出され、入居者同士の会話の絶えないホームであり、家族に信頼され安心感となっていることが窺われる。法人全体で高齢者福祉に取組み、ホームもその一役を担っており、今後も更なる発展に期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価での改善課題を運営推進会議で報告し、理念を全員で検討し具体的な理念へと変更したり、見取りに関する指針の整備等具体的な改善へと繋げている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義を前向きに捉えており、自己評価も意欲的に取り組んでいる。この1年間を振り返り、全員で話し合い改善課題や今後も継続して取組み事項等を明確にしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月毎に開催する運営推進会議は定着し、行政や民生委員・区長・家族・法人事務局や夜勤以外の全職員が参加し、近況報告や意見交換が行われている。昨年の外部評価後から全家族に議事録を配布し周知を図り、地域行事等の情報を得地域との交流促進に繋げている。又、ホームの提案事項であったベンチも設置されている。しかし、意見は少なくなってきたとのことであり更なる工夫に期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月の利用料金持参時、暮らしぶりや健康状態の報告、毎月「むつみだより」の中に行事予定を掲載し周知を図っている。意見箱の設置や外部評価結果を玄関に掲げ、自由に閲覧してもらうことや「ご意見ご要望をご進言ください」と記載し、家族や訪問者からの徴集に努め、家族会もイベントと組み合わせる等工夫しており、多くの家族が参加されている。ホーム内外の苦情相談窓口も明示し玄関に掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民との関係は構築し、地域の行事や幼稚園へ訪問し交流したり、中学生のナイストライや高校生の福祉体験実習の受入れ等による交流、文化祭に入居者の作品を出品したり、地域活動の一環として花植えに入居者ともども参加する等地域の一員として積極的に活動している。防災訓練にも民生委員の参加やホームの花見に地域住民も参加される等地域との交流は常態化している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念3項目を基に、昨年度の外部評価後に職員全員で話し合い、地域で暮らし続ける姿勢を具体的にわかりやすく謳っている。運営方針も具現化したものに変更している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は自分たちで作上げた理念を大切にしながら入居者個々に向き合い、玄関や台所に掲示し意識向上を図っている。毎月目標を掲げその実現に向け全員が真摯に取り組んでいる。また、ホーム内業務見直しを掲示し、意思の統一、ケアの統一に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺には民家が隣接しており、毎日受診を兼ねた散歩時に挨拶を交わしたり、地域住民も見守り支援される等地域住民との関係は構築している。地域の行事や幼稚園へ訪問し交流したり、中学生のナイスライや高校生の福祉体験実習の受入れ等による交流、文化祭に入居者の作品を出品したり、地域活動の一環として花植えに入居者ともども参加する等地域の一員として積極的に活動している。防災訓練にも民生委員の参加やホームの花見に地域住民も参加される等地域との交流は常態化している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を前向きに捉えており、自己評価も意欲的に取組んでいる。この1年間を振り返り、全員で話し合い改善課題や今後も継続して取組み事項等を明確にしている。昨年度の外部評価での改善課題も運営推進会議で報告し、理念を全員で検討し具体的な理念へと変更したり、見取りに関する指針の整備等具体的な改善へと繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催する運営推進会議は定着し、行政や民生委員・区長・家族・法人事務局や職員が参加し、近況報告や意見交換が行われている。昨年の外部評価後から全家族に議事録を配布し周知を図り、地域の方からの発言からは、ホームを好意的に応援してくれている様子が窺われる。ホームの提案事項であったベンチも設置されている。しかし、意見は少なくなってきたことである。	○	定着した運営推進会議となっており、地域との交流促進に一役を担っていることが議事録より推察される。2ヶ月毎となると今後意見も少なくなってくることも予想され、議題を事前に通知したり、具体的な支援(例えば食事支援やアクティビティ等)を一緒に行ってみる等更なる工夫に期待したい。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者からの情報提供やホームも情報を発信し、認定調査時に意見交換を行っている。又、包括支援センターが行う勉強会へ参加し、サービス向上に取り組んでいる。	○	地域の中での生活が充実し、地域行事等へ積極的に参加している。計画した外出時等の外部の人々の偏見に危惧されていることが聞き取りの中で出てきた。ホームの啓発に取り組まれていることも運営推進会議より窺われ、今後更に行政に情報を発信し、認知症ケアを推進できるよう働きかけを行っていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用料金を持参してもらい、暮らしぶりや健康状態を報告したり、毎月“むつみだより”の中に行事予定を掲載し周知を図り、ローテーションを組んで職員紹介を掲載し全家族と運営推進会議の委員へ配布している。金銭管理も徹底しており、個別管理と出納帳に家族のサインをもらっている。遠方の家族には領収証とともに手紙を添え送付したり、随時電話連絡により家族の不安解消に努めている。訪問時にも数名のご家族が訪問され、職員と会話したり、入居者と輪になって団欒される姿に日常の取り組みが窺われた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や外部評価結果を玄関に掲げ、自由に閲覧してもらうことや“ご意見ご要望をご進言ください”と記載し、家族や訪問者からの徴集に努めている。家族会もイベントと組み合わせる等工夫しており、多くの家族が参加されている。ホーム内外の苦情相談窓口も明示し玄関に掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は継続した職員でのケアの重要性を認識し全職員を常勤としている。離職や異動時には入居者に十分な説明を行う意向であるが、現在異動や離職者もおらず、定着した職員により安心した生活を支援している。職員同士の意思疎通も良く、自信をもって明るくケアに当たっている。		
5. 人材の育成と支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の教育委員会の年間計画による研修会や母体病院での勉強会、ホーム内での毎月の運営会議等職員の教育体制が確立し、リーダー研修等の外部研修にも輪番で参加し全職員に資料を回覧し情報の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、ブロック会議に参加し交流促進につなげ、事例検討会等質の向上に取り組んでいる。今年度は近隣グループホームとの交換研修も行われている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族から生活状況等情報の把握に努めたり、施設のケアマネジャーから情報を得て、本人との信頼関係作りに取り組んでいる。また、ショートステイ経験者や自宅からの入居時にショートステイとして数日間生活を共にし、安心して過ごされるよう家族等に訪問してもらっている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者一人ひとりに向き合い、大家族として和気あいあいとした生活が送られている。明るく対応する職員のもと、入居者同士も仲良く、常にどこからか話し声が聞こえている。「何なりとしないといかん。遊んでばっかりじゃいかん。」と洗濯物たたみをされる姿もあり、職員は介護する側・される側に立たず、ねぎらいの言葉をかけたり、励ましあいながら意識向上を図り、喜怒哀楽を共にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族からの情報や本人の長年の暮らし・人生を尊重し、入居者の行動の理解に努め、入居者同士の会話からの意向の聞き取りや職員の言葉での誘導により個々に応じた対応に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ホーム職員によりケア会議を開催し、その後医師である理事長・法人事務長・ホーム全職員の他、今年度は訪問看護の職員も参加しサービス担当者会議を開催している。また、実施状況を毎月モニタリングし、本人・家族の意向を踏まえた介護計画を作成している。特に本人・家族の意向は話し言葉で記載している。家族の意向や職員の観察・気づきが随所に反映した介護計画と個別性のある介護計画である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月毎の見直しの他、毎月個別記録をもとにしたケア会議とサービス担当者会議を開催し、状態変化に応じ随時の見直しを行っている。日々詳細な記録を残し、申し送り等により情報を共有しケアの統一を図っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日のリハビリへの通院や美容資格を持つ職員により無料の理容支援、日々の健康管理や母体医院と隣接しており、心身の変化に医療と連携し臨機応変に対応ができる等多機能性を柔軟に発揮している。今年度よりショートステイの受入れや福祉体験学習を受入れ、入居者の希望によりふるさと訪問等支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医としているが、隣接する母体医院(理事長)がかかりつけ医となっており、専門的な治療を要する場合には専門医を紹介し、適切な治療が受けられるよう支援している。受診は家族対応となっているが、家族での対応ができない場合は職員が同行している。今年度から訪問看護を週3回採用し、往診や夜間時の緊急体制も構築している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に運営方針を説明をしているが、隣接に母体医院や併設に老健施設があり、終末期ケアは行われていない。今年度終末期について家族にアンケートを行い、24時間医療連携加算を取り、重度化した場合の指針を整備している。このホームでの生活を少しでも長く過ごすことも家族の意向としてあったとのことであり、週3回の訪問看護を家族の同意を得て採り入れている。	○	今後更に益々高齢化・重度化が進むことも推察され、今後も家族の意向等話し合いを重ね、ホームで出来る最大限の支援方法等検討いただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人理念“人間としての尊厳の尊重”の実現に向け、自然体で接し、自尊心への配慮等高い意識を持って全職員が取組んでいる。法人の接遇委員会にも参加し、個人情報方針や利用目的を整備し、職員のみならず福祉研修で訪問する高校生からも誓約書を受入れ、書類物は事務所保管とする等情報漏洩には万全の対策を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな流れはあるものの、入居者の思いや体調に応じ本人のペースに合わせて支援している。午後の時間も入居者同士が楽しく語り合い笑いの多い時間となっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物担当者が食材を購入し、その状況により献立を立て、入居者もできることを中心に手伝っている。職員も1名の全介助者の周りに座り、入居者と職員との会話や入居者同士語らいながら楽しい食事となっている。誕生会等の行事食やバスハイクでの外食も採り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことのできる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日職員が声かけし入浴を支援している。ケア会議の中で入居者一人ひとりの入浴支援方法を話し合い、入浴拒否者には馴染みの人と一緒の入浴や本人のペースに合わせて支援する事等プランに入れ、重度の入居者も職員が力を合わせ支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式を活用し、生活歴の把握により、残存能力のバランスを鑑み経験や知恵を発揮できるよう出番を作り、調理の下準備や茶碗ふき、茶椀洗い・洗濯物たたみ等一緒取組んでいる。また、御仏ご飯の上げ下ろしや夕方の寝床敷きも自然発生的に行われ、御仏飯のお下がりをありがたく食される姿も家庭ならではの自然な光景を垣間見ることができた。毎月の遠出や地域行事への参加等気晴らしの一環としている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	母体医院での治療を兼ねたホーム周辺への散歩を心身の活性につなげたいと毎日支援している。系列法人の通所リハの行事へ参加したり、地域行事への参加、また、入居者全員での遠出を毎月1回支援している。希望に応じ“ふるさと訪問”によりホーム周辺のみならず、自宅周辺住民との交流を図っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前が道路、2階が日中の生活という状況であり、安全面から玄関にはチャイムを付け鍵をかけることもある。職員の見守りや寄り添いにより外出願望を察知し、時には一緒に散歩に出ている。地域住民も見守り役としての協力体制が構築している。帰宅願望の入居者を、他の入居者が「ご飯を食べていかんな。息子さんは仕事だから。」と戒められる姿もあった。	○	道路に面していることや徘徊される入居者が多く、職員の見守りや所在確認の徹底・落ち着いたケアにより、安心した生活であることが十分に表出されている。業務見直の中にも見守りをこれまで以上に気をつけることを記載し全員が取組んでおり、今後も階段の上り下り等には十分な配慮を継続し安全な生活を続けていただきたい。
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの防災避難訓練が実施され、訓練日の周知に地域を回り、民生委員が訓練に参加されている。生活スペースが2階となっており、階段から入居者を運ぶ様子が“むつみだより”で紹介されている。緊急通報や緊急マニュアル、急変時のマニュアル等整備し、日常的にも火元確認が徹底されており、甲種防火管理者講習に参加したり、法人内で初期消火対応研修が行われている。地震対策も進められており、今後地域にも呼びかけていく意向である。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や毎月の体重測定等をバイタル表に記録し栄養管理を行い、水分補給は毎食事・10時・3時・入浴後や夜間等1, 200CC以上を目安に適時支援している。入居者の状態によっては摂取量と排泄量を記録し、食事量が少ない場合には主治医に相談し補助食品を利用している。日々バランスを考慮した家庭的な食事となっており、嚥下状態等により2度炊きやキザミ食等個別支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階が玄関・事務所と居室として利用し、日中の大半を過ごす2階には大広間と台所、浴室等となっている。階段には昇降機が付けられているが、入居者のほとんどは階段を「よいしょ よいしょ」と自分に叱咤激励しながら登られている。心身の如何に関わらず暮らす2階からは遠景に山々が、近くには地域の家並みが見渡せる環境にあり、大広間のソファ位置を季節や入居者の状況に応じ随時変更する等、居心地良く過ごすよう工夫している。又、1階玄関も入居者の機能低下に応じ椅子の設置場所を変えたり、階段の壁面を利用し入居者一人ひとりの写真を掲示している。職員は入居者の状態を観察し、工夫しながら生活環境を整えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階居室は畳敷きに襖で仕切られ、ホームで用意した箆箆が設置され、生活用品や鏡台等が持ち込まれている。入居者の生活は2階が中心であり、ベッドの上の布団はきちんとたたまれ、襖を開け空気の入替えがされている。入居者の身体機能低下により畳みに布団を敷いた生活や入浴後は入居者は職員とともに三々五々「寝床敷きに」と降りられる様子も家庭生活の継続のようである。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームむつみ荘
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県葦北郡芦北町大字佐敷371-6
記入者名 (管理者)	田端きよ子
記入日	平成20年10月22日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域行事に参加、顔なじみを作ろう。認知症に対する理解を深め、地域の人達と支え合おう。	○	プランター花植え、どんどや等に参加し、地域の方々の協力を得ている。又、むつみ荘の行事に地域の方々を招待している。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域行事には、必ず参加するようにし、休みの職員もボランティアとして協力してもらっている。	○	幼稚園の行事に参加、園児・父兄・地域の老人会の皆様方との交流も行っている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族へは、ホーム便りを活用し伝えている。地域行事に参加する事で、徐々に深めるようにしている。	○	運営会議等で理念については説明している。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩中、挨拶を交わし利用者と共に世間話をしている。	○	出かける際には、声かけし出かけている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会等の加入はないが、地域の行事等に参加させてもらっている。	○	地域の行事、プランターの花植え、文化祭への利用者の制作物を出展している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に取り組んではない。	○	介護に対する相談事には応じている。 (地域及び通りすがりの人)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を踏まえ、改善に向けて具体案の検討や実践につなげている。	○	幼稚園との交流。お年より～子供まで。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所活動状況や利用者の状況を報告、事業所と地域との交流促進のため2ヶ月に2回行っている。	○	地域行事に参加できるようになった。プランター花植え年2回。ベンチ設置等を地区会長さんに提案。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	情報提供書等も頂き、必要時は事業所からも提供している。	○	訪問調査時には情報提供している。感想を伺ってみる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会等に参加するよう務めている。	○	現在必要性が無いため、理解度が低いようであり、研修等に進んで参加し、支援する体制をとっていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で虐待防止に関する理解浸透、遵守に向け取り組んでいる。	○	虐待は全く無い。今後も無いように遵守していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<input type="checkbox"/> 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<input type="checkbox"/> 約款書を説明し、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについて詳しく説明している。	<input type="checkbox"/> 利用者や家族の不安、疑問点がないよう十分な説明を行っていききたい。
13	<input type="checkbox"/> 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input type="checkbox"/> 利用者からの直接的な意見はないが言葉や行動から察する努力をし、不満を取り除くようにしている。	<input type="checkbox"/> 利用者の意見・不満・苦情がないようなケアにしていきたい。
14	<input type="checkbox"/> 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input type="checkbox"/> 利用料金支払い時、状態を説明し金銭管理は出納帳にサインをもらい報告している。	<input type="checkbox"/> 毎月1回広報誌を配布している。遠距離の家族にはその都度電話報告や手紙で状況報告をしている。
15	<input type="checkbox"/> 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input type="checkbox"/> 意見箱を設置、利用料金支払い時、要望・意見を尋ねている。	<input type="checkbox"/> 気軽に意見・不満・苦情が言い表せる雰囲気作りをし、運営に反映させていきたい。
16	<input type="checkbox"/> 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<input type="checkbox"/> 運営者と共に毎月会議を行い意見交換を行っている。	<input type="checkbox"/> 運営者には職員の意見や提案について配慮して頂いている。
17	<input type="checkbox"/> 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	<input type="checkbox"/> 利用者の自由な暮らしを出来るだけ支えられるよう利用者の状態やペースにあわせたローテーションを組んでいる。	<input type="checkbox"/> 勤務調整には職員全員が快く引き受けるよう話し合いをしている。
18	<input type="checkbox"/> 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input type="checkbox"/> 移動や離職がやむをえない場合、利用者きちんと説明し紹介している。	<input type="checkbox"/> 移動や離職を最小限に抑える努力をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	事業所内外の勉強会・研修等には順番に参加している。資料等は職員全員閲覧できる。	○ 常に研修等には参加していく。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホームブロック会にて、勉強会、研修に参加。事例検討を通して同業者の意見や取り組みをケアに活かしている。	○ グループホームブロック会にて、職員の交換研修を行った。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	他のグループホームや事業所との交流、親睦を行い気分転換を図っている。	○ 法人内の親睦会や小旅行に参加させてもらっている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員の資格取得の支援は十分に行われている。	○ 実務者研修、リーダー研修に参加させてもらっている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	利用者によってはホームの見学等をしてもらい、本人に会って心身の状態、思いを把握し信頼関係を作っている。	○ 話をよく聞くことに努め、本人を受け止めるよう努力していきたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	これまでの経緯、状況についてゆっくり話を聞き、利用に至っては安心されるよう十分な説明を行うよう務めている。	○ 事業所としてはどのような対応が出来るか事前に話し合い進めるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望を前提としての相談には応じているが、他のサービス利用の支援は行っていない。	○	場合によっては他のサービスで対応できるのか見極め、支援していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学してもらうことからはじめ、徐々に馴染めるよう工夫している。	○	家族やこれまで関わった人に来てもらい安心感を持ってもらうようにしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たずお互い協働しながら和やかな生活が出来るように働きかけている。	○	家族同様わきあいあいとした中で喜びも悲しみも分かち合い支え合っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し本人を支えていくために家族と同じような思いで支援していることを伝える。	○	家族と共に利用者を支援できるよう努力していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事に家族を誘ったり、より良い関係の継続に務めている。	○	外出や外泊で家族と一緒に過ごすように働きかけを行っていききたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人や場所との関係が途切れないように古里訪問を行っている。	○	今以上、なじみの人や場、そして家族とのきずなを古里訪問において深めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動を通して利用者同士が円滑になるように働きかけをしている。	○	お互い助け合って行くよう、利用者には働きかけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族に出会ったりして時には状態をうかがったり遊びに来てもらうように働きかけている。	○	これからも続けていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の行事や表情から汲み取り関わる中で把握している。意思疎通困難な方は家族から情報を得ている。	○	職員全員が一人一人の思いや意向について関心を払い把握するよう努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者などから聴き取るようにしている。家族は全部話さない。	○	これまでの暮らし方を把握することにより、より良いサービスを提供できるようにしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活のリズムを理解すると共に行動や小さな動作から把握している。	○	出来ること、分かることを暮らしの中で発見し、取り上げないように努めるようにしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望や思いを聞き、職員全員でケアカンファレンスを行い無理のない介護計画を作成している。	○	本人や家族の現状や意向を大切にし、よりよく暮らされるように支援していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が終了する前に見直し、状態が変化した際にはその都度見直ししている。	○	臨機応変に対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分・排泄等身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなどを記録している。いつでも全ての職員が確認できるようにしている。	○	個別記録を元に介護計画の見直し、評価を実施している。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応している。	○	ショートステイ利用も受け入れている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議において、民生委員・区長・役場職員とは意見交換は行っているが、警察・消防とは行っていない。	○	消防署と協力、避難訓練を行っている。又、近隣の方にも声かけて協力を頂いている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内の行事に参加している。	○	利用者が楽しみにされているので、これからも続けていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に行っていない。	○	意向や必要性があれば支援していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医、または受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。基本的には家族動向の受診となっている。不可能な時には職員が代行している。	○	かかりつけ医や希望する医療機関の受診を支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関にて診断情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている。	○	認知症に対して適切な診断治療ができるよう取り組んでいきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。	○	看護職員がいない時間は、介護職員の記録をもとに、確実な連携を取っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。	○	家族とも情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より、本人・家族に事業所の運営方針を説明している。	○	本人・家族の意向を伺い、早い時期に対応方針を立てている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	母体が医療機関であるため、終末期の支援については取り組んでいない。	○	今後の利用者の変化に備えて、事業所のできること、できないことを見極め検討していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活環境、支援の内容、注意が必要な点については情報提供している。	○	本人の情報・状況を詳しく伝え、環境や暮らし方の継続に配慮してもらうよう働きかけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。</p>	○	一人一人の誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底していきたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>利用者に合わせて声かけ、意思表示の困難な方には表情から汲み取っている。</p>	○	表情や全身での反応を把握するよう努めていきたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人一人の体調に配慮し柔軟に対応している。</p>	○	一人一人のペースを大事に支援している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている</p> <p>生活習慣に合わせた支援、行事、外出時はおしゃれを楽しんでもらっている。</p>	○	職員の一方的な支援ではなく、本人の好みや意向、持っている力に応じた支援を行うようにしている。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>同じテーブルで職員全員が同じ物を一緒に食べ、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	○	楽しい雰囲気ですべてできるよう利用者の席にも配慮している。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>飲み物、おやつ等は日常的に好みに応じ考慮し差し上げている。お酒は行事等には差し上げるようにしている。</p>	○	好みに応じ配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、定時はトイレ誘導することでトイレの排泄を促している。	○	尿の排泄量、水分摂取のチェックが必要な方は、チェック表を作り記録している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の気持ちや習慣に合わせた入浴支援ではないが、毎日入浴は行っている。	○	本人の希望、習慣に合わせて入浴していただけるよう支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努力している。	○	夕食後からテレビや雑談をしながらお茶を飲み、穏やかな時間をすごし休んで頂いている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の手伝いなどで利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。遠出・外出・地域の行事に参加し、気晴らしできる機会を作っている。	○	調理の下準備・茶碗洗い・茶碗拭き・洗濯物たたみなど手伝っていただいている。季節に合った遠出、外出を月に1回計画している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方が主であり、家族の了解を得て職員が管理している。	○	買い物に行くとき、本人が払えるよう支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性につながるよう日常的に散歩を行っている。	○	通所リハの行事や法人の行事に参加している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食・散歩など、弁当を持ってドライブに出かけている。	○	弁当を持ってドライブを兼ねて古里訪問を行い、気分転換を図っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主に電話の取次ぎを行っている。毎年、年賀状や暑中見舞いを出す支援を行っている。	○	利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は定めておらず、仕事帰りや家族の都合のいい時間帯にいつでも気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。	○	職員がいつも快く笑顔で出迎えられるよう努力している。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間において認識の徹底を図っており、拘束は全く行っていない。	○	これからも拘束のないケアを徹底していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路に面しているため、安全上やむを得ず鍵をかける時もあるため家族にも了解を得ている。	○	その日の状況に応じて一緒について行き、安全面に配慮している。近所の方にも見守り声かけや連絡をしていただき協力して頂いている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者・職員共に居間で過ごし、見守りを行っている。夜間は数時間毎の見回りを行い利用者の行動にすぐ対応できる場所にいる。	○	24時間利用者の安全に配慮し事故のないよう気をつけている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くようなことはなく、利用者の状況変化によっては注意を促し、ケースに応じた対応をしている。	○	保管・管理には十分気をつけていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。	○	利用者の状況に応じて想定される事故を職員で検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会には参加しているが、実技の体験・習慣が徹底していない。急変・事故発生時は母体となる法人と連携し対応している。	○	様々な事故の対応法、職員全員が対応できるよう、勉強会に参加できる機会を増やしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議等で地域の人々の協力を得られるよう働きかけは行っている。	○	避難訓練を実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の一人一人に起こり得るリスクについて把握しており、家族等に対しても対応策を説明している。		状況変化に応じて話し合いをしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握しており、少しでも食欲や顔色、様態の変化が見られた時はバイタルチェックを行い、変化の記録をつけ、状況に応じ医療機関受診につなげている。	○	常に顔色や兆候を見落とさないよう注意している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーをケースごとに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。	○	服薬時は本人に手渡し、服用できているか確認している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材を取り入れ、散歩・家事活動等身体を動かす機会を適度にもうけて自然排便できるよう取り組んでいる。	○	毎日の散歩を行い、身体を動かすことを心がけている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後はうがいの声かけをし、行ってもらっている。夕食後は義歯使用者はポリデント消毒している。	○	一人一人の口腔状態や力に応じた支援を続けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定、食事摂取量をバイタル表に記録している。献立もバランスよく作り、献立表に記録している。	○	状態に応じ、摂取量・排泄量を記録している。食事摂取量が少ない方には、場合によって栄養補助食品を利用している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、対策として、うがい・手洗いの励行、布巾・まな板の消毒、手すり・便器・ドアノブ等の消毒。	○	消毒等はチェック表を作成し、毎日実行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	その日の食材はその日に購入、新鮮なものを。冷凍食品は一切使用していない。まな板・布巾等も殺菌・消毒に努めている。	○	買い置きがないよう冷蔵庫内の品物の賞味期限の確認を怠らないようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	普通の家庭の建物であり、施設を感じさせない玄関で出入りの人には圧迫感を感じさせないと思う。	○	表札は手作りのものを使用。玄関先にはプランターを置き、四季折々の花を植えるようにしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と台所はつながっており、生活感あふれ五感を刺激している。	○	居間には畳にソファを置き、心地よく過ごせるようにしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールには椅子を設置、階段踊り場には絵画や利用者の手作り装飾をしている。	○	思い思い、安全に過ごされるよう配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのダンスがあり、居室が狭いため、家族からの持ち込みはない。	○	家族とのきずなをつなぐためにも、家族との写真など小さなものからでも働きかけていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日最低5回は必ず行い、時と場合によってはその都度行っている。利用者の状況、体感に応じ湿度調節を行っている。	○	利用者の体調に合わせて、空調利用も配慮している。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	滑り止め、要所への手すり等の設置は十分にできている。また、身体機能の低下にあわせ階段に昇降機を設置している。	○	わずかな段差がリハビリの一環であり、事故のないよう支援している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の状況に合わせて環境整備に努めている。	○	利用者の目線にあわせ、大きく分かりやすく表示してある。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先の小さな花壇やプランターに四季折々の花を植え、水遣りや草取りを楽しんでもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

むつみ荘は、熊本県の南部に位置し、海がありとても風光明媚なところですが、ホームの周りには小学校、高校がありとても静かな町中にあります。ご利用者様には心豊かに過ごせる場所だと思います。天気の良い日には毎日散歩に出ます。春には桜並木の歩道をとおり、春爛漫を満喫することが出来ます。又、近所の方とも顔見知りとなり、グループホームをご理解いただき協力をしていただいています。ホームでは、炊事、洗濯たたみ、掃除等職員と一緒に手伝いしていただいています。毎日入浴し、1日の疲れを癒していただき、気分転換を図っています。むつみ荘では、人間としての尊厳を尊重し、個性、主体性を尊重してご利用者様に悔いなく生活していただけるよう努力しています。